

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

やすらぎ東古松

日付 平成 20年 3月 4日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験9年

評価調査員 在宅介護経験13年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

このホームを訪問して一番に目に入ったのは「明日が節分」という事だろう、ユニークで微笑ましい鬼の面の数々。私が思わず見入っていると「ええのが出来とるでしょう。みんなで作ったんよ」と00さんが教えてくれる。「祝85歳 Mさんお誕生日おめでとう」の飾りつけも晴れやかで、Mさんは「今日の主演」とばかり、ポケットにも赤い花のチーフを覗かせながらも、恥ずかしそうだ。美しい装いに指のマニキュアや薄化粧も光り輝いていて、おかげで訪問者の私達まで大ご馳走とパースティケーキまでお相伴に預かる事になった。お祝いの行事は、Mさんが青春時代に踊っていたダンスに始まって歌へと続く。午前と午後、どんな寒い日でも必ず散歩していると言うが、今日の午後は残念ながら雨。飲み物で喉を潤してから、利用者の皆さんの希望で、ピンゴゲーム、あや取り、おはじきと楽しみ事が続く。その合い間には音楽に合わせての数え歌体操やグーパー体操も入る。何もやっても利用者皆が生き生きと、積極的に取り組んでいて感心してしまう。

管理者は以前の教育活動の経験から、認知症高齢者の心身の機能維持に有効なのではないかと、数々の試みを実践してここに成果をあげている。例えば公文のウッディパズルやたんぐらむ・いろはカルタや百人一首・折り紙や紙細工・手芸での小物作りや縫い物・写経と並べていけばきりが無い程だ。何かを仕上げる喜びと多少の互いの競争心を、職員が上手に織り込んで「年取ってからでも、やれば出来る」という意欲を上手く引き出している。95歳から始めた絵を104歳になっても楽しむ母と暮らしている私は、このグループホームの目指している方向性に全面的に賛同している。

独り暮らしが長かった母親を気遣い「高齢になっていく母を看たい」と同時に「地域の人が自分の親を安心して任せられる家も作りたい」の二つの希望が同時に叶えられるこの「グループホームやすらぎ東古松」を4年前に母親ゆかりのこの地に立ち上げた。母も入れて6人という小さな所帯にしたのは、収支を度外視して理念を優先させた現われと言えよう。少人数の利用者がゆとりの人数の見守りの中で、身体的な面の自立だけに止まらず、積極的な脳の活性化の刺激に触発されて元気いっぱいの日々を送っている。やすらぎ東古松は、こんなグループホームである。

特に改善の余地があると思われる点

このグループホームやすらぎ東古松の、他のホームと異なるスタンスに対して、アイデンティティーをしっかりと表に出して、今のケアの有り方を進めていって下さい。

このホームの生活リハビリや寄り添ったケアによって利用者の状況が改善したり、心身の機能が向上した経緯を判り易く記録等にまとめ、他のホーム等の認知症ケアに参考になるようにして頂ければと思います。

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：自主評価に於ける改善点は特に挙げられてはいない。このホームとして目指している方向が明確であるし特徴的で良いと思う。</p> <p>2、全体的に見て…：地域の人々が「自分の家族を施設には入れたくない。しかし、自宅で介護していくには困難があり過ぎる。困る」と思った時、「こんな、施設らしくない所もありますよ。ここでは家庭と同じように普通の生活が出来ますよ」といったホームを代表者・管理者そして職員共々目指している。災害が少ない所為か、助け合い精神が少ないとよく言われるこの岡山の地に、大阪人の人情の熱さが所々に感じられる運営と、他のグループホームでは見られないような独自の発想・展開がこのホームに多く見付けられて、とても興味深い。今後どのようなホームに発展していくのか楽しみにしている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：ホーム内での食事作りその他の家事を徐々に増して生き甲斐や楽しみに繋げる計画とあるが、楽しみ事はもう既に多く持っているため、出来るものから少しずつ取り入れたら良いと思う。</p> <p>2、全体的に見て…：各居室にリビングルームといったこじんまりとした生活空間であるが、そのデメリットにも十分配慮しながら「見守りのし易さ・お互いの親密な関係作り・スキシップ」等のメリットを上手く活用している。毎日2回（天候不良の日はスーパーマーケット等へ）の散歩では、歩いて直ぐ近くの公園や近所のお店が恰好の「我が寛ぎ場」となり、子供達・近隣の人・ワンちゃん等とお付き合いの場ともなっている。ご近所の方々も、管理者の母の地盤に加えて、こういった日々の交流が積み重なって、次第にこのホームの存在やケアのあり方に理解を深めてくれているのだろう。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせて入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：その人の力を存分に発揮して貰おうとする仕掛けや努力はよく出来ていると思う。買物等地域社会に多少の迷惑は掛けても、それが返って地域への還元につながるのではないだろうか。</p> <p>2、全体的に見て…：「歩行がとても困難だった人が少しずつ歩けるようになった」「排泄支援が放棄されていたような人が入居後、自立に近くなった」「一日中ぼんやりして何もしたくない状態だった人が、人に負けまいと頑張るようになった」等、一人ひとりの力が、十分な見守りとその人にあった生活リハビリで目に見えるように回復している。強制しない事については十分配慮しながら、負けん気の強さを巧みに活用してより高い方へ引っ張る手法や、役割当番の事で争いにならないよう交通整理をしている職員の努力の賜物だろうと思う。より活動的・積極的な暮らしへの支援とリスクマネジメントの責め合いが難しい所だろうが、家族や地域社会との連携を十分取りながら、進めていって欲しい。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：家族との交流・情報提供は出来る所から徐々に進めていきたい。お便りもホームの歴史になるので、双方に有効ではないだろうか。</p> <p>2、全体的に見て…：日本の施設職員数の基本内では1対1でサービスしている北欧等のケアには辿り着けないと考え、フリーの状態の人数設置でマンパワーを厚くしている。ホームの生活全般にこの影響は大きく関与し、如何しても走り回らざるを得ないグループホームが多い中、ここではじっくりと寄り添い共に行動する職員の姿が何時も見られる。これ程の寄り添いであっても、一寸した弾みで利用者が転倒する事もある。大事に至るケースが殆ど無いのは、「ヒヤリ・ハット」の報告等で事故を未然に防ぐシステムが出来ているからだろう。何かあった時の医療連携も、信頼関係が築かれている医師とよくとれているので安心だ。</p>		